学校番号	3005

令和２年度　国語科

教科	国語科	科目	国語表現	単位数	２単位	年次	３年次 (総合募集・接続選択) （工学系・選択）
使用教科書	「国語表現　改訂版」　（大修館）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ

・表現の基礎となる国語の力を身に付けることを心がけましょう。
・文章記述、発表など、アクティブな活動を取り入れた授業を行います。
・コミュニケーションのための「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身につけてください。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

2　学習の到達目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。そのための語彙力の育成に努める。さらに、論理的に考える練習をし、進んで表現することによって、社会生活で必要となるコミュニケーション能力の向上をはかる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙）	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	表現のイメージをつかむ	㈠　話すということ	○	◎			a 自分の考えを話すことの基本的な態度や心構えを理解できる。 b 他人の話を正しく聞き、話の内容やポイントを理解できる。	・ワークシート ・発表 ・相互評価
		㈡　書くということ	○		◎		a 目的、相手、形式にあわせた文章の大切さを理解できる。 c 目的や相手にあわせて文章を書こうとすることができる。	・ワークシート ・発表 ・定期テスト
	表現のスタイルを知る	㈠　的確に話す		◎			b 自分の伝えたい内容を、話言葉で適切に相手に伝えることができる。	・ワークシート ・相互評価
		㈡　記録・説明の文章を書く	○		◎		a 内容を正確に記録することができる。 c 自分の記録に基づいて、内容を書き言葉正しく説明することができる。	・ワークシート ・定期テスト
		㈢　意見文を書く	○		◎		a 自分の意見を明確に文章で表現することができる。 c 読み手の理解や共感が得られるような構成や内容を組み立てることができる。	・ワークシート ・発表 ・定期テスト
		㈣　通信文を書く	○		◎	○	a 様々な種類の通信文についてその特質などを理解できる。 c 様々な種類の通信文を書くことができる。 d それぞれの手段にふさわしい文章や表現を工夫できている	・ワークシート ・作品 ・定期テスト
	表現のテクニックを磨く	㈠　調査したことを発表する						
		1調べる　情報の収集		○		◎	b テーマを決めて情報を収集する手段について理解する。 d 情報を的確に読みとる。	・ワークシート ・定期テスト
		2　要約をする	○			◎	a 必要な情報を的確に要約する方法を理解する。 b 文章や語られた内容などを、正しく要約することができる。	・ワークシート ・定期テスト
		3　インタビューをする	○	◎	○		c 聞きたい内容にふさわしい質問をすることができる。 d 相手の話をよく聞き、それを第三者に正しく伝えることができる。	・取り組み ・作品
		4　グラフ・表・図解の利用	○		◎		a 情報のさまざまな表現手段とそれらの持つ特色を理解する。 b 収集した情報を効果的に伝えることができる。 c 言語情報と非言語情報とを相互に生かした形で効果的に活用できる。	・ワークシート ・定期テスト
		5　プレゼンテーションをする	○	◎	○	○	d パブリック・スピーキングに配慮しつつ、人前で発表することができる。	・作品 ・発表 ・相互評価、自己評価

後期	表現のテクニックを磨く	㈡　討論をする－話し合う 1　討論する目的 2　討論するための注意点 3　ディベートをしてみよう	○ ○	○ ◎		◎	a 討論の目的、方法、注意すべき点について正しく理解する。 b 立論や質疑を通して、論理的な思考と説明を進めることができる。 d 異なる意見を踏まえて、合意形成や問題解決を図ることができる。	・ワークシート ・定期テスト ・発表 ・相互評価
		㈢　報告の文章を書く	○		◎		a 目的に応じた方法や対象を吟味し、正しく調査することができる。 c 調査内容や分析を、的確に文章で表現できる。	・作品 ・発表 ・相互評価、自己評価
		㈣　小論文を書く 小論文とは 小論文の基本構成 小論文の表現 さまざまな小論文を書く「	○		◎	○	a 小論文の構成や効果的な表現について理解する。 c 対立意見を想定した上で、説得力ある小論文を書くことができる。資料を理解しそれに対する自分の考えを論理的に書くことができる。 d 原稿用紙の使い方を理解し、実際に正しく使うことができる。	・作品 ・発表 ・相互評価、自己評価
	表現のルーツを知る	㈠　言葉の歴史、文章の変遷 参考　古典の文章 ㈡　日本語表現の特色と異文化	○ ○	○ ○	○ ○	◎ ◎	a 日本語の歴史について理解し、史的観点から日本語の特色を理解する。 b 古典の文章と現代の文章の共通点や相違点について理解する。 c 他の言語との比較を通じて、日本語の特色を理解する。 d 自分の言語環境を観察し、日常の生活の中から日本語の特色を探し出すことができる。	・ワークシート ・定期テスト
	創作者になろう	㈠　詩歌をつくる	○	○	◎		a 自らの発見や感動を的確にとらえ、自分の言葉で詩歌を創作できる。 b 詩歌の内容にふさわしい朗読をすることができる。 c 適切な表現や効果的な表現について工夫し、それらを正しく使うことができる。	・作品 ・相互評価、自己評価
		㈡　随想を書く	○		◎		a 散文の特色を生かしながら、自分の考えを随想として創作できる。 c 適切な表現や効果的な表現について工夫し、それらを正しく使うことができる。	・作品 ・相互評価、自己評価
		㈢　小説を書く	○		◎		a 構成や展開を組み立てながら、自分の主張を小説として創作できる。 c 適切な表現や効果的な表現について工夫し、それらを正しく使うことができる。	・作品 ・相互評価、自己評価

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力
d:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」）に関わる観点には◎を付している。